

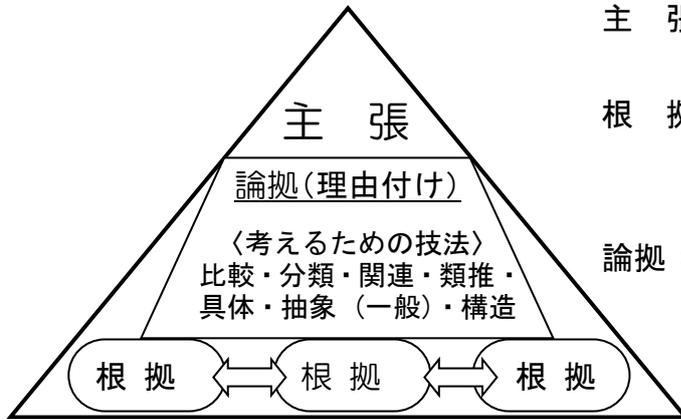


「昭島市民科」思考力・判断力・表現力を育成
するために、必要な教師の基礎的知識

学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 授業は子供が主人公！ 誰一人取り残さない！
子供の成長を教育活動のど真ん中におく！ One for all. All for one. ONE TEAM. チーム拝二小

I 論証〈ツールミンモデル〉

昭島市民科の発表・プレゼンの3要素



主張：課題に対する自分の結論（意見）

根拠：事実、データ（その場にいる人々全員が納得できる情報）

論拠（理由付け）：根拠をもとに〈考えるための技法〉を活用して、解釈・説明、「根拠から主張までのプロセス」

II 論拠を支える〈考えるための技法〉

日常のすべての授業に組み込む！

- 比較する：複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。（時間的比較、空間的比較）
- 分類する：複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
- 関連付ける：複数の対象が、どのような関係にあるのか明らかにする。（目的—手段、原因—結果）ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。（マッピング）
- 類推する：ある対象について、それと似た事象の仕組みや法則から推測する。
- 具体化する：対象に関連する上位概念に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
- 抽象化する：（一般化する・統合する）対象に関する上位概念を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
- 構造化する：考えを構造的（網構造・層構造）に整理する。

児童に、今、どのプロセスの学習を行っているのか、意識化を図る！

III 探求的過程における思考力・判断力・表現力等の深まり〈評価規準〉

1 課題の設定	2 情報収集	3 整理・分析	4 まとめ・表現
☆より複雑な問題状況、確かな見通し、仮説 ■問題状況から課題（学習問題）を発見し、設定する。 ■解決の方法や手順を考え見通しをもって計画を立てる。	☆より効率的・効果的な手段、多様な方法から選択 ■情報収集の手段を選択する。 ■必要な情報を収集し、蓄積する。	☆より深い分析、確かな根拠付け ■問題状況における事実や関係を把握し、理解する。 ■多様な情報にある特徴を見付ける。 ■事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える。	☆より論理的で効果的な表現、内省（メタ認知）の深まり ■相手や目的に応じて分かりやすくまとめ表現する（上記Iの「論証」）。 ■学習の進め方や仕方を振り返り、生活に生かそうとする。